

▼フレンズコーナー

シニア技術者と大学生による復興支援と防災活動
～地震/津波被災地における長期的支援に取り組み中です～

国境なき技師団 理事

神 豊和

写真はセブ島の小学生と



1. 国境なき技師団とは

NPO 国境なき技師団 (Engineers Without Borders Japan 略称：技師団) は 2004 年のインド洋地震・津波災害を契機に設立され、土木・建築技術の側面からインドネシア・スマトラ地区の災害復興支援を行いました。また、東日本大震災では津波被災地の東北三陸地方に土木・建築分野のシニア技術者を派遣し、インフラの復旧・復興を支援して 10 年、現在も継続しています。また、技師団は大学生による子供たちに対する草の根的な防災教育サークル活動を支援しています。学生たちは日本と同じく自然災害が多発するインドネシアとフィリピンの小学校を訪問しての防災教育と両国の現地大学生との交流を行っています。現在会員は 93 名、賛助会員は 52 社で構成。会長：濱田政則（早大名誉教授）、理事長：秋山充良（早大教授）です。●HP：<https://ewb-japan.org/>

2. 津波被災地を支援

津波で被災した地域では、破壊された社会インフラを如何に早期に復旧し、生活再建を促すかが優先



陸前高田市気仙川にて津波で流された橋桁を調査するシニア技術者



大船渡市、災害公営住宅建築工事を施工管理する派遣技術者



市役所道路課で執務をするシニア技術者



大船渡市の避難所で子供たちに絵本を読んであげる早大学生 (WASEND)

的な課題です。生活に直結する道路、上下水道、住宅、エネルギー等はその再生が必要不可欠なインフラです。技師団は東日本大震災が起きた2011年に東北の三陸海岸に位置する津波被災地区を訪れ惨状を調査しました。翌年から大船渡市、陸前高田市の復興事業のために自治体にシニア技術者を派遣して10年、現在も継続しています。

3. 学生サークルによる「子どもへの防災教育・DRR」

技師団は2つの学生サークル、早大防災教育支援会(WASEND)・京都大学防災教育の会(KiDS)を支援しており、学生たちは国内外の小学校を訪問して防災教育を実施しています。海外ではインドネシア、フィリピンの小学校でDRR(Disaster Risk Reduction)活動を行っています。インドネシアでは現地の言葉を事前に学ぶ努力が必要ですが、フィリピンは英語が公用語でもあり活動に広がりが出ています。

●HP (<https://ewb-japan.org/>) の「学生防災サークルを支援」を参照ください。



国内における防災教育



インドネシアの小学校にて



フィリピンのルソン島・山地の小学校にて



クイズで盛り上げるインドネシアの子供たち

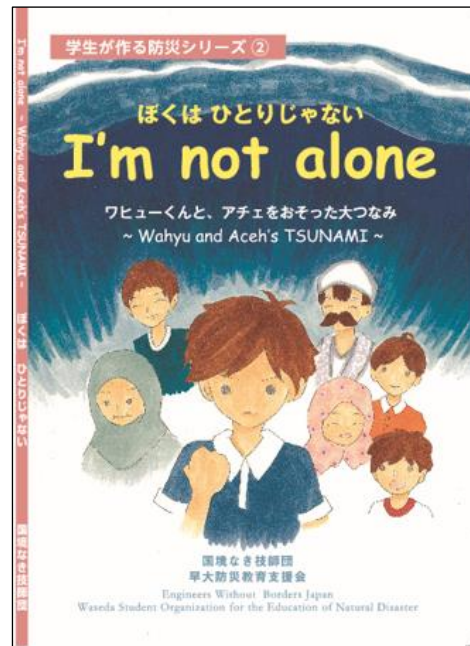
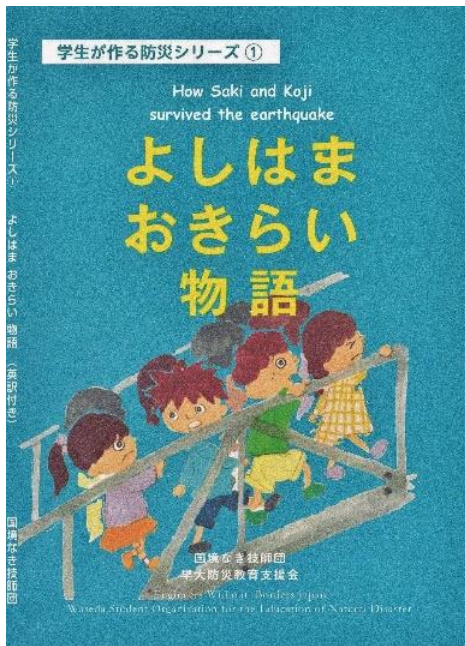
4. 教材に防災絵本を創作しています。

被災地に派遣中の技術者と情報共有しながら学生サークルでは絵本を作りました。

第1弾は大船渡市の吉浜と越喜来(おきらい)地区における津波避難をテーマにしたストーリーです。題名は「よしはま・おきらい物語」です。

第2弾は2004年のインドネシア・バンダアチェを襲った大津波で被災した実在する少年の体験談を絵本にした「ぼくはひとりじゃない(I'm not alone)」です。

どちらも英訳付きで第2弾はインドネシアの子供たちも読めるようにインドネシア語版も用意しました。



インドネシアの子どもたち



フィリピンの子どもたち

5. あとがき

コロナ感染による活動が停止した影響は大きく、学生達の海外活動も予約していた航空便、ホテル、訪問予定の小中学校などすべてキャンセルとなりました。今は首を長くして再開を待っている日々です。一方でコロナ前（2020.2）、活動の最後になったのが大船渡市で被災した震災当時、小学生だった子どもたちに会い座談会をしたことです。震災後10年経って皆さん高校生になり防災について自分の意見をはっきりと述べており、印象的な懇話会でした。

●座談会記事はニュースレター15号（p.20を参照）<https://ewb-japan.org/newsletter/>

